

2026年度スピリチュアルケア専門講座 講義概要

前 期		
科目名 講座日程	講義テーマと内容	講師
現代社会と スピリチュアリティ 2026年4月19日 5月23日	テーマ:均質化する社会・される個人…責任から逃避する態度への問い 自らの安定のために、社会の合理的と思える権威に従い、均質化される生き方に疑問を抱かずに従う人が増えている。自分自身を取り戻すには、困難な状況と向き合うことで生を覚醒することが必要になる。その過程から、私たちは究極的には役に立たない存在であるが、同時に一人ひとりがかけがえのない存在であることを明らかにする。	佐藤俊一
スピリチュアルケア 原論 2026年4月19日 5月23日	「スピリチュアル」と「ケア」の二つに分けて、それぞれの特徴を明らかにする。スピリチュアルケアの実践に向けての基本的知識と情報を明らかにする。スピリチュアルケアと宗教や心理的ケアの違い、また、キュア（治療）とケア（配慮）の違いなどを明確にする。更に、スピリチュアルケアの歴史、ケアする人に必要な能力など。スピリチュアルケアは患者や利用者にとってどんな援助か。患者のスピリチュアルペイン（痛み）、ニーズ（必要）のアセスメントにも触れる。	窪寺俊之
保健医療と スピリチュアリティ 2026年6月13日	テーマ：死を前にした患者をどう支えるか 緩和ケアの本質は厳しい病状の中でも「生を肯定して」生きられるよう支援することである。緩和ケアにおけるQOLの考え方や患者の支えを強めるために何ができるか、臨床の現場での取り組みを紹介する。	坂下美彦
	テーマ：臨床現場におけるスピリチュアルケア 医療現場においてはさまざまなスピリチュアルペインが表面化されやすく、医療者も専門職として日々向き合うとともに、スピリチュアルケアとは何か多角的に考える機会を得ている。末期がん患者や神経難病患者の実例を紹介しながら、スピリチュアルケアの実践についてともに考える時間とする。	細田 亮
宗教と スピリチュアリティ 2026年7月5日	テーマ：宗教や価値観の理解への抵抗や遠慮、可能性と限界 私たちの生き方に及ぼす影響から、キリスト教、仏教、神道や儒教、そして今後の関わり増加が予想されるイスラームなどを視野に入れた、スピリチュアルケアの実践を考える。	葛西賢太
対人援助論(1) 2026年8月8日	テーマ：対人にかかわる実践力を磨く（1） 対人専門職の教育の高度化や専門化という方向性によって、頭で考える(思考する)ことが優先している現状がある。そのため、実践力を身につけるには単に援助の技法を学ぶのではなく、原点となる「自分を使う」ための基礎工事ができているかを確認していく。個々の課題を明らかにしながら臨床的態度を学ぶことで、気持ちが動いて身体で感じて行動する力を身につけられるようにする。	佐藤俊一

2026年度スピリチュアルケア専門講座 講義概要

後 期		
科目名 講座日程	講義テーマと内容	講師
精神医学と スピリチュアリティ① 2026年9月12日	<p>テーマ：心の健康とスピリチュアリティの関連について</p> <p>心身の健康を維持・増進するためにスピリチュアリティの果たす役割について、精神科医療の現状を踏まえつつさまざまな角度から検討する。</p> <p>WHOの健康の定義をめぐる議論からも分かるとおり、スピリチュアリティは身体性・精神性・社会性などと並んで人という存在を支える重要な柱であるにもかかわらず、日本の現状において十分な注目を与えられていないこと、その再発見と回復が健康な人格形成に不可欠であることを明らかにする。</p>	石丸昌彦
精神医学と スピリチュアリティ② 2026年10月18日	<p>テーマ：well-beingとBio-psycho-social-spiritualモデルから精神医学を再考する</p> <p>人生の価値が生存権としてwell-beingという概念化がされて70年、構築主義的なBio-psycho-socialモデルが登場して50年になる。障がいを見る視点はICIDHの個人の機能障害という医学モデルから、ICFにおいて社会的関係性へと修正され、共生と参加として社会モデルへと再構築された。しかし、ケアをする/受けるあり方の実践の場ではまだ医学モデルが残り、病者の幸福の実現を遮り、生を制限する力へと転化してしまっている。常にこの問題に晒され、修正を模索し続けてきた精神医学からwell-beingを再考することで、ケアラーの立ち位置を明確化したい。</p>	小川 恵
臨床心理学と スピリチュアリティ 2026年9月12日 10月18日	<p>テーマ：つながりあう「いのち」を生きる</p> <p>臨床心理学とスピリチュアルケアに共通する「いのちとそのケア」の捉え方について、さまざまな見解の概観を試みる。スピリチュアルケアにおいて、なぜ「今、ここで」の自己覚知に基づく相互の理解が重視されるのか、また、ケアする者とされる者との「呼応の関係」が大切になる理由を問うてみる。それらを通じて、スピリチュアルケアにおける「Being（相手とともに/自分自身とともに）」の重要性を探究する。</p>	木村登紀子
対人援助論(2) 2026年11月29日	<p>テーマ：対人にかかわる実践力を磨く</p> <p>ケアを必要とする相手からの、自覚的なあるいは暗黙の呼びかけに気づき、相手の必要に応えつつそれぞれらしく相互にかかわるケアの在り方を探る。どのような場であっても、相手と共に居る（自分自身とも共に居る）ケアの実践ができるように、基本的な力を修得することをめざす。</p>	木村登紀子
対人援助論(3) 2027年1月31日	<p>テーマ：対人にかかわる実践力を磨く（3）</p> <p>他者の中に働くさまざまな価値観や力動を大切にしつつ、ケア者もその力動のなかの一つの要素として関わる。ケア者の自己理解の深まりが求められる。それらを大切にする援助演習をおこなう。</p>	伊藤高章
臨床哲学と スピリチュアリティ 2027年2月28日 3月6日	<p>テーマ：ケアの原点…私たちは、お互いにケアしあう存在である</p> <p>なぜ、スピリチュアリティが求められるのか。これまでの対人にかかわる科学主義的態度を検証し、その限界や問題点から検討する。焦点とするのは、これまで正面から取りあげられなかった、主観や予測できないこと等をテーマとすることで、ケアを生身の関係から基礎づけることである。</p>	佐藤俊一